

牧之原だより

昭和54年12月1日発行

第7号

牧之原畑地総合整備土地改良区

島田市中央町26番の1

電話<05473> 6-0984

6-0682

山梨県 笛吹川沿岸総合開発事業

水資源を確保して 新しい農業経営への幕明け

土地改良区役職員、市町担当課職員は、去る九月六日山梨県笛吹川沿岸土地改良区管内の事業を視察、改めて水の重要性を知らされ

ました。

笛吹川は、その源を埼玉県境の奥秩父山系に発し、甲府盆地の東部を貫流する富士川の支流であります。

ます。

詩情豊かさを思わせる川の名称とはうらはらに、昔からたびたびの水害によつて沿岸の住民を苦しめてきたとの記録が残されています。

この笛吹川の豊富な水を有効に利用しようとして開始されたのが、山梨県笛吹川総合開発事業であります。

この事業は、笛吹川上流に多目的ダムを建設し、洪水の調節と、下流に広がるブドウ、桃、桑な



▲50年3月見事に完成された広瀬湖

国営事業は
四十六年十月に着工

どの園地に対するスプリングラーによる畑かん多目的利用と、発電上水道にも使おうというものです。

造成された幹線パイプの分水工以下の基幹水路から、各圃場のスプリングラーまでの工事で、四十八

国営笛吹川

農業水利事業

は昭和四十六

年に着工され

受益地域は山

梨市をはじめ

二市九町二村

で、面積は五

千八百畝、関

係農家は約一

万五百戸、お

茶とブドウと

の違いこそあ

れ牧之原とほ

ば同様の規模

であります。

総事業費は、

国営が二百十

億円、県営が

三百五十二億

円といわれて

います。

この水源は、

五十年三月に

完成した「広

瀬ダム」から

導水され、

塩山市藤木に

ある調整池の

取水工から、

国営工事によ

つて造成され

たパイプで送

水されています。

位置図

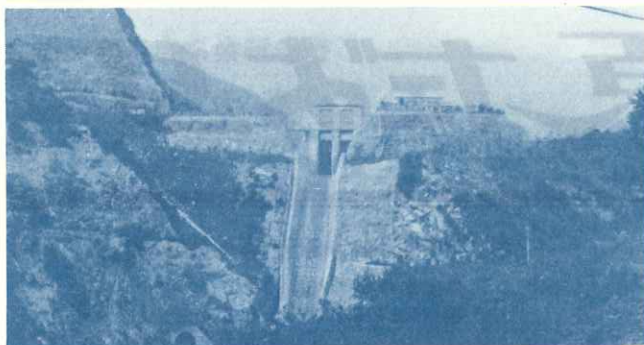


地域・地積

市町村名	受益面積
牧丘町	200ha
塩山市	390ha
山梨市	820ha
春日井町	80ha
勝沼町	570ha
石和町	100ha
一宮町	960ha
御坂町	690ha
八代町	500ha
滝川村	410ha
中通村	410ha
豊富村	400ha
三珠町	270ha
計	5,800ha

県営は一部地域で完成
散水、防除に大かつやく

県営事業は、国営事業によって



▲正面より望む広瀬ダム(えん堤)



▲ぶどう園ではかん水にフル回転

年から工事が始められています。
現在塩山市その他の地区で二百七十五畝の末端施設が工事を完了、既に散水と防除に大活躍、早くもその効果が端的にあらわれているとのことです。

案内役をつとめて下さった笛吹川沿岸土地改良区円道事務局長さんは、実際にスプリンクラーが回転するまでは、事業に対する理解を求めるのに苦労しましたが、今では「水」に対する認識も高まり限られた事業予算の中で未施行地

区の実施要望を満たすのに頭を悩ませています。

新しい農業経営の幕明けは、水を如何にして高度に利用するかにあると思います。地域のみならずともようやくしてその辺の理解を深めてくれたのではないでしようか。」と、しみじみ語っておられました。

ブドウの国甲州も、水を計画的・多目的に利用することによって、その営農形体が大きく変容することでありましょう。



ごあいさつ

牧之原畑地総合整備土地改良区
理事長 加藤 太郎

組合員のみなさまには、まずまずご健勝で活躍のこととお慶び申し上げます。

今年のお茶は、凍霜害に明け、塩害に終るといふ、茶農家にとつてはほんとうにきびしい年でありました。被害を受けられたみなさまに心からお見舞いを申し上げますと共、こうした災害を防ぐことのできる畑かん施設の早期完成をめざすべく、思いをあらたにいたしました。

さて、昨秋開設されました「関東農政局牧之原農業水利事業所」では、五十四年度に四億円の予算をもって、調査、測量等を行なつてまいりましたが、いよいよ本年度に中央幹線(金谷町地内)千五百畝の埋管工事を行なうことになりました。工事が円滑に進められるよう、関係地主のみなさまに対する説明会を実施してまいったのは、ご承知のとおりであります。

牧之原台地に水をあげるといふ同地開拓史上画期的な事業の記念すべき第一歩を迎えるわけであり

ますが、さらに来年度は八億円程度の事業費が予測され、工事一段と活発に展開されるものと大きな期待を寄せております。

みなさまの深いご理解と力強いご協力により、事業がよりスムーズにすすめられることを、ここで改めてお祈り申し上げます。

県営事業につきましては、着工以来早や七年目を迎えて、すでに六十三億円に及ぶ事業費を投じて、幹支線農道をはじめ、排水路、農地造成、畑地かんがい(一部)工事が各地で進められてきております。

とくに、畑総事業の基幹である畑かん事業をすすめ、五十二年度に完成した相良町の畑かん施設園(五畝)では、台風二十号による塩害に対して、スプリンクラーが早速活躍し、三回、四時間三十分にあたる散水をしたところ、茶葉に付着した塩分はほとんど除かれ被害を最少限に止めるという好結果をあげることができました。

県建設事務所の適切なご指導の賜

ではありましようが、大いに注目すべき事例であらうと思います。

なお、五十五年度には、牧之原に最も適した望ましい施設をさぐるため、凍霜害の常習地帯で三畝の地域を選定して、凍霜害防止を主眼とする施設(モデル園)を設置するよう、現在関係機関に強く要望中であります。

農道につきましては、完成路線は十数路線に達し、さらに継続中の幹支線農道が部分的ながら完成しましたので、生産機材の搬入や摘採期の生葉運搬作業が大幅に改善され、関係の方々喜びは大変大きいものと思われまます。

関係市町におかれましても、これらの整備されつつある農道を大きく評価され、将来のまちづくりの一環としてとらえ、積極的なご理解、ご支援をいただいておりますことは誠に喜ばしいことであります。

申し上げるまでもなく、農業をとりまく情勢はますます厳しさを増してきております。今こそ、それぞれの営農に直結する農業生産基盤の整備と、農村の生活環境の整備が、何より重要な課題であると信じます。

向寒の折から、みなさまのご健康をお祈りし、牧之原畑総事業へのより一層のご支援をお願いいたします。私の「ごあいさつ」といた

昭和55年度予算要求にあたって

全国土地改良事業団体連合会

顧問 岡部三郎

(前農林水産省構造改善局次長)



岡部三郎さんの略歴

大正15年8月 神奈川県に生まれる。
神奈川県立横浜第一中学校、旧制第二
高等学校を経て

昭和23年 東京大学農学部卒業、直ち
に農林省入省。

昭和30年 愛知用水公団工務部勤務。
この間世界銀行からの借かん事務折衝
のため1年数ヶ月アメリカ駐在。

昭和34年 農林省豊川用水事業所工事
課長

昭和38年 農林省開こん建設課、かん
がい排水課課長補佐、農地局調査官、
公団監理官を歴任。

昭和47年 農林省構造改善局設計課長

昭和50年 " " 建設部長

昭和52年 " " 次長

この間、国際会議、技術援助のため
の欧州・東南アジアへ数回出張。

昭和54年3月 退官

現在 全国土地改良事業団体連合会顧
問。

昭和54年10月 静岡県岡部三郎後援会
結成

秋冷の候となり、秋の収穫も一
段落のことと存じあげます。

私も三月の退官以来またたく間
に六ヶ月が過ぎてしまいました。

この間農林水産省では、厳しい
と言われる昭和五十五年予算編
成に取りくんでいたわけで、大変
なご苦労を願っています。

九月に入って農林水産省は、大
蔵省に対して昭和五十五年予算
要求の説明を行ないましたが、そ
の結果によりますと、来年度の農
業基盤整備費の要求額は一兆八十
九億円(前年対比一一・五%)と
なり、はじめて一兆円の大台をこ
える予算要求額となりました。五
年前私が構造改善局の建設部長を
やっていた頃の予算に比べると、
実に三倍という大きな予算規模に
なっている訳であります。

来年度予算については、大蔵財
政当局が多額の赤字国債を抱えた
国の財政をたてなおすために、厳
しい姿勢で各省の予算査定にあた
る事を早くからしめしており、サ
マーレビューと称して既定経費の
見直しを指示したり、各省の予算
要求額を昨年以上に小さくするな
ど、全体的に厳しい情勢だといわ
れております。

更に悪いことには、農林水産省
の内部事情としても米の過剰基調
の中で古米の処理、生産調整の強
化等による食糧会計予算の増加等
の悪条件も重なっており、そうし
た中で農業基盤整備費の伸びが心
配されたところでしたが、はじめ
に書いたように一兆円の大台にの
る予算要求になり、一応の格好は
ついたといえるでしょう。

しかし、五十一年度以降四年間
続いた大巾な予算の伸びも、来年
度はむづかしく、相当厳しいもの
になることは確実であり、今後年
末にかけての予算編成をめぐる攻
防の中で、如何にしてこの要求額
を確保することができかが焦点
であるといえましょう。

私も全土連顧問として、構造改
善局のOBとして、皆様方の要望
の強い農業基盤整備の促進が図ら
れるよう、全国の土地改良関係者
の皆様と手を取り合って、この予
算獲得に頑張っていきたいと考え
ております。

厳しい予算要求の中では新しい
事業制度の要求等は困難のよう
ですが、土地改良施設の維持管理の
充実、土地改良区の育成強化等は
土地改良区の皆様様が最も望んで
いる仕事ですので、是非共力を入
れていきたいと思っております。

水田の汎用化を促進するため
は、排水対策の緊急実施、ほ場整
備、土地総、基幹かんがい排水事
業等の計画的実施が必要であると
考えます。

畑作振興、地域農業の発展に資
するために畑地帯総合整備事業、
農道整備、農用地開発事業の推進
各種農地防災事業の実施等、生産
基盤の整備促進も図らねばなりま
せん。

台風二十号県下を直撃!! 又も茶園に潮の大被害

本土を縦断した台風二十号は、
十月十九日県下を直撃して農作物
に大きな被害を与えました。

当牧之原畑地帯内の茶園も又
例外ではなく、特に南部四町(榛
原、相良、御前崎、浜岡)の被害

は相当の面積にのぼるものと思わ
れ、来年の新芽の分化に与える影
響が心配されています。
古老の言葉に、「大きな凍霜害
のあった年は必ず潮風が吹く。」と
いわれています。

今後とも更に一層皆様方のご指
導、ご支援をいただきますよう心
からお願い申し上げます。

なる程、四月には近來まれにみる凍霜害があり、そして今度の塩害と誠に言いあてて妙であります。が、気象条件に大きく左右される農業であるとはいえ、この冷酷な自然のしがらみに、関係農家の方々の表情は暗たんたるものがあります。



▲塩害防止に大かつやくのスプリンクラー
(相良町地頭方)

スプリンクラーが 塩害防止に大かつやく

昨年春完成した相良町地頭方の畑かん事業先行施設五畝の茶園では、潮のあがった十九日の夜間塩害防止のためにスプリンクラーが大かつやく、被害を最少限に止める大きな効果をあげました。

凍霜害にしても、或いは塩害にしても、この種の気象災害防止に大きな役割りを果たしたスプリンク

塩害防止散水状況

(気象状況は御前崎測候所調)

1. 台風通過時間 54年10月19日 13時00
2. 台風通過時最低気圧 974.7mb
3. 最大風速 平均27.5% 瞬間 43.2%
4. 風 向 南々西
5. 最終降雨時間 19日 14時45分
6. 散水について (スプリンクラー散水、反当 9本、5町歩 473本)

(資料提供—牧農水建設事務所)

	散 水			計	備 考
	第 1 回	第 2 回	第 3 回		
散 水 開 始 時 間	19日 15時45分	19日 22時00分	20日 3時30分		
散 水 終 了 時 間	17時15分	23時30分	5時00分		
散 水 時 間	1時30分	1時30分	1時30分	4時間30分	
散水量(単位当り)	1.8mm	1.8mm	1.8mm	5.4mm	{ 1回当り 1.8mm 3回 で 5.4mmの降雨があ ったことと同じである 現場ポンプ場の風速計 地頭方畑かん組合長 鈴木 太平 氏
" (反 当)	1.8mm	1.8mm	1.8mm	5.4mm	
" (5町歩)	90m ²	90m ²	90m ²	270m ²	
散 水 中 の 風 速	15~18%	10%位	7%位		
作 業 人 員	1人	1人	1人	延 1人4時間30分	

★御前崎測候所における最終降雨は14時45分で散水開始は15時45分、1時間遅れて散水したが、当時は南西の風が15~18%吹いて塩分が多少含まれていた。

★水量の関係で1回当り 1.8mmで3回行ない 5.4mmを散水したが、散水量、散水時間については今後検討したい。

★散水効果については、翌日(20日)茶葉に塩分結晶の付着が見られなかったが、尚今後の経過を見たいと思う。

ラー散水に対して、今一度認識をあらたにすると同時に大きな期待が寄せられています。

“国営事業愈々着工” 中央幹線(送水管) 一千五百ポットの埋設

昨年十月開設された国営事業所では、一日も早い着工をめざして事業実施に必要な調査、測量等を鋭意行なっており、五十四年度工事として中央幹線(送水管)上流部壱千五百ポットを予定し、金谷町下原地内関係地主の理解と協力を得るよう説明会等を開催、年内に着工すべく準備を進めています。

静岡県議会農林水産 委員一行、牧之原畑 総事業の現地を視察

去る八月二日、静岡県議会農林水産委員会石井 茂委員長他委員一行は、鈴木農地森林部長の案内で、牧之原西部地区農地造成第二工区(菊川町吉沢)そのほかの現地を視察され、畑総によって進められている大規模な基盤整備事業に目を見はつておられました。

待ち望まれる支線農 道の舗装、加藤理事 長関係機関に陳情

畑総事業によって施行される農道のうち、幹線農道については舗装工事が実施されてきましたが、

支線農道の舗装は急傾斜(1%以上)部分に限られ、その他は簡単な防じん舗装の施行に止められていました。

車なしでは考えられない現代社会にあつては未舗装道路から生ずるじんあいによって、周囲の茶園が受ける影響は誠に大きいものがあると思われまふ。

そこで土地改良区では、関係市町及関係組合員の要望をふまえて七月十八日、県農地森林部鈴木部長ほか関係課長、牧之原農業用水建設事務所に対し、支線農道全線を完全舗装されるよう強力な陳情を実施しました。

農地森林部長さんから「厳しい予算状況の中でむづかしさはあるが、前向きに検討してみたい。」との意向が示されました。



現地視察の一行

昭和52年度借入金償還積立特別会計収支決算

収入決算額 9,479,587円

支出決算額 1,418円

差引残額 9,478,169円……翌年度へ繰越

<収入の部> (△印減)

款	決 算 額	予算との比較
1. 決 算 金	2,104,368円	1,604,368円
2. 雑 収 入	216,585	26,585
3. 繰 越 金	7,158,634	158,634
収 入 合 計	9,479,587	1,789,587

<支出の部>

款	決 算 額	予算との比較
1. 徴 収 費	1,418円	△ 48,582円
2. 引 当 金	0	△ 7,640,000
支 出 合 計	1,418	△ 7,688,582

<支出の部>

款	本年度予算額	前年度との比較
1. 事 務 費	41,836,000円	765,000円
2. 総 代 会 費	1,051,000	△ 8,000
3. 会 議 費	1,227,000	△ 185,000
4. 事 務 所 費	939,000	△ 35,000
5. 選 挙 費	100,000	0
6. 事 業 費	2,149,000	149,000
7. 分担金及負担金	525,715,000	100,129,000
8. 推 進 費	1,500,000	400,000
9. 借 入 金 償 還	69,489,000	19,891,000
10. 諸 費	1,740,000	0
11. 組 合 費 徴 収 費	6,222,000	2,961,000
12. 財 産 費	5,000,000	0
13. 換地清算交付金	3,880,000	3,880,000
14. 予 備 費	2,000,000	0
支 出 合 計	662,848,000	127,947,000

昭和52年度職員退職給与積立特別会計収支決算

収入決算額 5,038,292円

支出決算額 0円

差引残額 5,038,292円……翌年度へ繰越

<収入の部> (△印減)

款	決 算 額	予算との比較
1. 繰 入 金	1,500,000円	0円
2. 雑 収 入	196,899	96,899
3. 繰 越 金	3,341,393	1,393
収 入 合 計	5,038,292	98,292

<支出の部>

款	決 算 額	予算との比較
1. 退 職 給 与 金	0円	△ 4,940,000円
支 出 合 計	0	△ 4,940,000

昭和54年度借入金償還積立特別会計収支予算

<収入の部>

款	本年度予算額	前年度との比較
1. 決 済 金	500,000円	0円
2. 雑 収 入	545,000	40,000
3. 繰 越 金	12,005,000	2,740,000
収 入 合 計	13,050,000	2,780,000

<支出の部>

款	本年度予算額	前年度との比較
1. 償 還 金	12,773,000円	2,503,000円
2. 還 付 金	277,000	277,000
支 出 合 計	13,050,000	2,780,000

昭和54年度一般会計収支予算

<収入の部> (△印減)

款	本年度予算額	前年度との比較
1. 組 合 費	95,396,000円	21,202,000円
2. 助 成 費	25,957,000	1,311,000
3. 受 託 料	2,000,000	0
4. 借 入 金	499,130,000	74,130,000
5. 雑 収 入	1,016,000	△ 545,000
6. 繰 入 金	2,950,000	450,000
7. 負 担 金	26,019,000	26,019,000
8. 換地清算徴収金	3,880,000	3,880,000
9. 繰 越 金	6,500,000	1,500,000
収 入 合 計	662,848,000	127,947,000

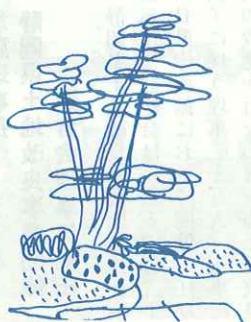
昭和54年度職員退職給与積立特別会計収支予算

<収入の部>

款	本年度予算額	前年度との比較
1. 繰 入 金	1,500,000円	0円
2. 雑 収 入	376,000	20,000
3. 繰 越 金	6,894,000	1,943,000
収 入 合 計	8,770,000	1,963,000

<支出の部>

款	本年度予算額	前年度との比較
1. 退 職 給 与 金	8,770,000円	1,963,000円
支 出 合 計	8,770,000	1,963,000



福をお祈り申し上げます。

ここにあらためてご両氏のご冥

眠されました。

また相良町の鈴木太一氏(五)は十

月十日に、それぞれ任期半ばで永

眠されました。

昭和四十八年八月第一回総代選

挙に当選、五十二年八月に再選さ

れ、当土地改良区初期の大変な時

期に総代として活躍された、浜岡

町の坂本文一氏(六)は六月六日に

また相良町の鈴木太一氏(五)は十

月十日に、それぞれ任期半ばで永

眠されました。

牧之原地総合整備土地改良区

総代坂本文一氏逝去

総代鈴木太一氏逝去

として敏腕をふるわれた中野正夫

氏は、去る九月末をもって退職さ

れました。

向こう一年間嘱託として後進の

指導を願うこととなっております

が、卓越した識見と高邁な人格は、

職員を始め接する方々に大変惜し

まれております。

(参考) 県営事業施行状況

〔牧之原南部地区〕

昭和53年3月31日現在

工 種	全体事業量	前年度末迄		本年度末迄		次年度以降	
		事業量	%	事業量	%	事業量	%
畑地かんがい	1,081ha	—	0	5ha	0.5	1,076ha	99.5
幹線農道	25,300m	3,090m	12.2	4,020m	15.9	21,280m	84.1
支線農道	74,600m	6,220m	8.3	8,204m	11.0	66,396m	89.0
排水路	76,242m	5,091m	6.7	5,234m	6.9	71,008m	93.1
事業費	11,455,296円	690,996円	6.0	1,059,876円	9.3	10,395,420円	90.7

〔牧之原西部地区〕

畑地かんがい	2,518ha	—	0	—	0	2,518ha	100
幹線農道	62,600m	1,260m	2.0	2,738ha	4.4	59,862m	95.6
支線農道	169,150m	2,985m	1.8	5,117m	3.0	164,033m	97.0
排水路	142,090m	—	0	280m	0.2	141,810m	99.8
農地造成	86ha	25.4ha	29.5	30.6ha	35.6	55.4ha	64.4
事業費	24,120,000円	773,944円	3.2	1,267,904円	5.3	22,852,096円	94.7

〔牧之原東部地区〕

工 種	全体事業量	前年度末迄		本年度末迄		次年度以降	
		事業量	%	事業量	%	事業量	%
畑地かんがい	1,260ha	—	0	—	0	1,260ha	100
幹線農道	25,500m	330m	1.3	790m	3.1	24,710m	96.9
支線農道	61,310m	885m	1.4	1,911m	3.1	59,399m	96.9
排水路	68,640m	—	0	—	0	68,640m	100
事業費	13,583,000円	112,820円	0.8	281,360円	2.1	13,301,640円	97.9

〔日 東 地 区〕

畑地かんがい	286ha	—	0	—	0	286ha	100
幹線農道	6,800m	951m	14.0	1,105m	16.2	5,695m	83.8
支線農道	25,300m	1,565m	6.2	2,049m	8.1	23,251m	91.9
排水路	22,400m	—	0	—	0	22,400m	100
農地造成	69ha	7.3ha	10.6	(3.3) 7.3ha	10.6	61.7ha	89.4
事業費	4,626,000円	394,246円	8.5	563,952円	12.2	4,062,048円	87.8
合計事業費	53,784,296円	1,972,006円	3.7	3,173,092円	5.9	50,611,204円	94.1

昭和52年度財産目録 (昭和53年5月31日現在)

(資 産)

○流動資産	12,377,011円
現金及び預金	9,422,521
現金	0
預金	9,422,521
未収入金	2,954,490
○基本財産	130,000
日本電信電話公社債	130,000
○特定資金	41,346,272
農地転用決済預金	9,478,169
職員退職給与積立預金	5,038,292
事務所建設費積立預金	21,850,311
経常費調整積立預金	4,979,500
○固定資産	4,286,470
備品	4,286,470
資産合計	58,139,753円

(負 債)

○長期負債	1,627,196,435円
借入金(元利)	1,627,196,435
○短期負債	3,254,469
借入金(元利)	3,254,469
○積立金	31,868,103
職員退職給与積立金	5,038,292
事務所建設費積立金	21,850,311
経常費調整積立金	4,979,500
負債合計	1,662,319,007円

昭和52年度一般会計収支決算

収入決算額	393,074,709円
支出決算額	383,652,188円
差引残額	9,422,521円……翌年度へ繰越

〈収入の部〉

(△印減)

款	決 算 額	予算との比較
1. 組 合 費	54,508,285円	△ 786,715円
2. 助 成 費	23,177,000	0
3. 受 託 料	1,501,000	0
4. 借 入 金	292,045,500	△27,242,500
5. 雑 収 入	2,482,488	1,249,488
6. 繰 入 金	2,500,000	0
7. 負 担 金	2,000,000	0
8. 換地清算徴収金	4,237,532	△ 2,468
9. 繰 越 金	10,622,904	0
収 入 合 計	393,074,709	△26,782,195

〈支出の部〉

款	決 算 額	予算との比較
1. 事 務 費	36,626,631円	△ 3,247,369円
2. 総 代 会 費	1,675,912	△ 283,088
3. 会 議 費	820,394	△ 408,606
4. 事 務 所 費	970,090	△ 3,910
5. 選 挙 費	758,000	△ 650,000
6. 事 業 費	1,501,000	0
7. 分担金及負担金	295,116,018	△25,527,982
8. 推 進 費	856,513	△ 243,487
9. 借 入 金 償 還	31,889,101	△ 1,601,899
10. 諸 費	1,726,000	△ 14,000
11. 組合費徴収費	2,474,997	△ 99,003
12. 財 産 費	5,000,000	0
13. 換地清算交付金	4,237,532	△ 2,468
14. 予 備 費	0	4,122,904
支 出 合 計	383,652,188	△36,204,716

昭和52年度事業報告書

1. 地区及び組合員の状況

イ. 地区

昭和53年 5月31日現在

事業種別	年度別地積 前年度末地積	本年度末地積	増△減	本年度賦課地積
県営畑地帯総合 土地改良事業	6,070ha	6,070ha	—	5,145ha

ロ. 組合員

市町居住別	年度別員数 前年度末員数	本年度末員数	増△減	附 記
島 田 市	1,054人	1,054人		
金 谷 町	1,225	1,225		
榛 原 町	1,239	1,239		
相 良 町	2,273	2,273		
御 前 崎 町	731	731		
掛 川 市	344	344		
菊 川 町	1,064	1,064		
小 笠 町	520	520		
浜 岡 町	858	858		
合 計	9,308	9,308		

2. 事業の状況

イ, 施設の維持管理状況……施設の譲与及び管理委託を受けていないので該当なし。

ロ, 工事の施行状況……該当なし。(参考: 県営事業施行状況別記)

3. 工事施行の効果及び利用状況

昭和52年度までの県営細総事業により支線農道10路線、排水路6路線がそれぞれ完成し、更に継続実施中の幹・支線農道の部分的な完成により生産資材の搬入、摘採期における生葉の運搬作業等は著しく改善された。又、畑かん事業として自動制御施設を相良町地頭方地内に完成。現在5haの茶園にかん水及農業害虫防除が自動散布で行われ、省力化及び薬害防止に効果が表れている。更に農地造成事業により約38haが開畑され、今後の営農規模拡大が図られている。

4. 長期借入金（農林漁業資金）

- (1) 借入先 農林漁業金融公庫東京支店
 (2) 借入目的 県営事業地元負担金へ充当
 (3) 償還方法 10年据置、15年元利均等償還

年 度	借入年月日	借 入 金	利 率	据置期限	償還期限	備 考
48年度	49. 2. 13	39,160千円	6.2%	58.11.15	73.11.15	小計 40,430千円
	49. 4. 10	1,270	6.2	58.11.15	73.11.15	
49年度	49. 9. 30	3,890	6.2	58.11.15	73.11.15	(48年度繰越分)
	49.12.24	62,280	6.5	59.11.15	74.11.15	小計 128,240千円
	50. 1. 24	62,070	6.5	59.11.15	74.11.15	累計 168,670 "
50年度	50.10.27	108,790	6.5	59.11.15	74.11.15	小計 165,350千円
	51. 4. 19	56,560	6.5	59.11.15	74.11.15	累計 334,020 "
51年度	51.11.18	117,300	6.5	60.11.15	75.11.15	小計 152,160千円 累計 486,180 "
	52. 1. 6	28,830	6.5	60.11.15	75.11.15	
	52. 4. 21	6,030	6.5	60.11.15	75.11.15	
52年度	52.12.27	205,670	6.5	61.11.15	76.11.15	小計 288,970千円
	53. 3. 16	83,300	6.5	61.11.15	76.11.15	
計		775,150				

5. 賦課金 賦課金の納入及び滞納の状況

年 度	区 分	調 定 額	収入済額	滞 納 額	収入歩合
過 年 度 (48~51年度)	經常賦課金	74,865,852円	72,780,122円	2,085,730円	97.2%
	特別賦課金	35,062,103	35,023,233	38,870	99.9
現 年 度 (52年度)	經常賦課金	23,215,112	22,441,222	773,890	96.6
	特別賦課金	32,123,063	32,067,063	56,000	99.8
計	經常賦課金	98,080,964	95,221,344	2,859,620	97.0
	特別賦課金	67,185,166	67,090,296	94,870	99.8